綾瀬川デザインワークショップ 公民学連携による維持管理等の仕組み ワークショップ総括案

区分	主体	整備	利活用	維持管理
区分	主体住民	整備 ・ 川沿いへの記念植樹(自費)【B】 ・ 広報誌作成【B】 ・ 看板作成(歴史、小学校と協働、間伐材活用)【D、E】 ・ 川舟展示整備【D】	利活用 ・ 施設を利用した人が使用料を支払う仕組みが必要 (適正な使用料設定をする)【B】	 【内容】 ・川沿い、公園の草刈り【A、B、E】 ・トイレ清掃【B、E】 ・不法利用を抑制するための見回り【D】 【手法】 ・UDCMi のような組織(県が維持管理を委託)をつくり、住民がボランティアとして登録(ボランティアに参加しやすい仕組みづくり)【A、B、E】 ・ボランティアにも費用を支払う仕組みを作る【A、B、E】 ・草の回収は行政が行う等、役割分担が必要【B、E】 ・管理区間を区切り、自治会単位で実施【E】 ・植樹は維持管理しやすい樹種とする(落ち葉が少ないなど)【D】 ・イベントと合わせた維持管理を行い、楽しく継続性のある活動とする【E】
	民間 企業	 川沿い(病院や商業施設)の賑わい施設(コミュニティカフェ)【A.E】 川沿いへの並木(桜など)【A】 風力発電【B】 有料トイレ(WAON等の電子マネーを使用)【A、B】 幹線道路への賑わい施設整備→河川にも賑わいが生まれる【B】 	・ 川沿いに花見をできる場所が必要【A】 ・ カフェの運営【A、E】	 維持管理費用は、企業が管理する場合と地元が管理する場合では金額が異なってくるのでは【A】 【内容】 川沿いの道路や水辺、桜並木の管理【A、E】 ビオトープの管理【D】 【手法】 町をきれいにすればポイントがもらえる仕組みを作る(例:WAON ポイント、地域通貨)【B】 企業の宣伝をする代わりに維持管理をしてもらう【B】 地元と企業が連携して管理する【A】
	その他 団体	・ 美園小学校付近では、環境学習に活用できるように水辺に近づきやすい整備【D】		・ 維持管理を小学校の活動に位置づける【D】
		・ 沿川住民や企業が水辺を魅力あるように運営(利活用や維持管理)・ 学生(高校や大学)などの力を借りて多様な年代が参加する組織・ 維持管理の中心となる団体はバランスの取れた組織が良い(多様・ 採算性について事前調査が必要【D】	づくり【E】	
調節池	住民	・ ビオトープや水田 (小学校の環境学習などに利用)【A、E】 ・ 芝張り (日本サッカー協会のプロジェクトを利用)【B】	・スポーツ広場の使用料を支払い、維持管理費に充てる【A、D】 ・ビオトープの保護、活用【D】	【内容】 ・ ビオトープなどの維持管理(利用する学校単位で実施)【A、E】 ・ 不法利用を抑制するための見回り【D】
	民間 企業	・釣り場(維持管理も含む)【D】	・ フリーマーケットや野外フェス【A】・ 二輪スポーツ広場の運用【D】・ 利用収入の一部を維持管理費にする【D】	【内容】 ・ビオトープの PR 活動、維持管理資金提供【D】 【手法】 ・ BBQ 資材貸出を周辺店舗に行ってもらう【B】
池		・調節池内は、整備、運営、維持管理を一括して体力のある民間企業で運用【E】		
	その他団体	・ 禁止事項や制限が多いと有効に使えないため、関係機関との調整を ・ スポーツ広場整備(行政と協働)【D】	か必要 [E] —	・ 自治体による管理、または管理組合による管理【D】 ・ 埼スタが調節池とその周辺も含めた管理を行う【A、E】
		・ 洪水後の調節池の清掃(堆積土砂等の撤去など)の役割分担を決め ・ 洪水時の芝生広場浸水による芝生育への影響確認【B、D】	める必要がある【B】	